

## 統計コラム 第7回「昭和は遠くなりにはけり（GDPとGNP）」

～～令和元年冬 居酒屋「千鳥足」にて（※バックには昭和歌謡が流れる）～～

係長「しかし何だね、平成生まれのMくんが入社してきたときは、昭和の俺はいよいよオッサンだなと思ったもんだよ。そのMくんも今や若手のリーダー格だもんなあ、俺の定年も近くなるわけだよなあ（遠い目）。

・・・ママさん、お酒もう一本！」

Mさん「いやあ、あの頃はずいぶん珍しがられましたよ。でも僕ももう30代ですからね、バリバリ稼いで会社に貢献しますから。係長、これからも御指導頼みますよ。いっそ二人でGDPを5%くらい押し上げちゃいましょうかね  
ワッハッハ（高笑い）。」

係長「ん？GDP？なにそれ？G『N』Pだろ？GNP！」

Mさん「・・・なにそれって、GDPはGDPですよ（ちょっとバカにした感じで白子ポン酢をつつく）。お昼のニュースで言ってるじゃないですか『今期のGDP、国内総生産は・・・』みたいな。てかGNPって何ですか？」

係長「GNPは・・・GNPだよ！ウチのオヤジがよく『くたばれGNP※』って言ってたよ（ドン！とカウンターを叩く）。」

※高度経済成長期の終わりに公害問題等が深刻化し、経済成長主義を批判して流行した言葉。

なお、GNPは現在GNI（国民総所得）に名称変更されています。

### 「経済の大きさを測る物差し」

さすがに係長さんのような人はもう現役世代には少なくなったと思いますが、GDPとGNP（GNI）の違いを知っている人もまた少数派ではないでしょうか。

お二人の仲が険悪になる前に、それらの違いをはっきりさせましょう。

GDPもGNPも、どちらも国連が勧告する基準（これをSNA：System of National Accountsと言います）に従って推計される経済指標で、経済の大きさを表します。世界中が同一の基準で自国の経済の大きさを推計することで、国際間の比較を可能にする物差しとなっています。

この二つの違いを簡単に言うと「どの範囲を計測しているか」ということです。

GDPはGross Domestic Productの略称で、国「内」総生産を指します。

対してGNPはGross National Productの略称で、こちらは国「民」総生産を意味します。

統計の世界では内ベース、民ベースなどと呼んだりしますが、それでは「国内」と「国民」、どう違うのでしょうか。

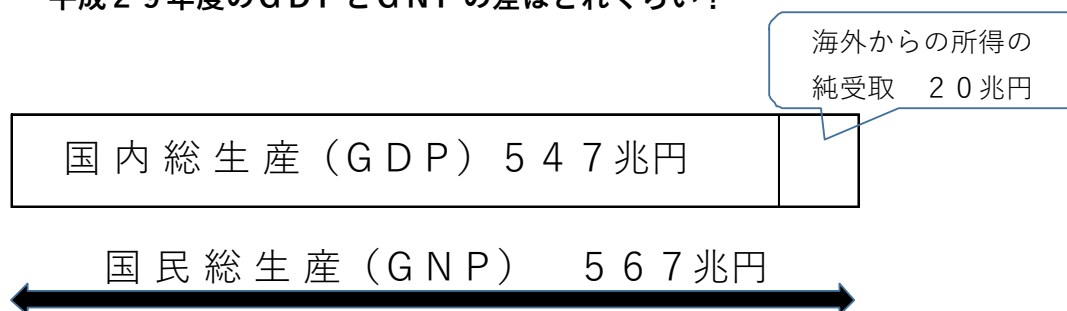
GDPが示す「国内」とは、一国の領土を指します。なので、外国軍の基地などは除外します。その中で一定期間（多くは1年）に行われる経済活動の総和がGDPになります。企業の国籍は問いません。

対してGNPのいう「国民」とは、国内に一年以上いる人を指します。その人たちが一定期間内に行った経済活動の総和がGNPです。この場合、国籍や法人自然人の別は問いません。

イメージで言うと、GDPは国内の経済活動の量（すなわち生産）で、GNPは居住者の総所得（外国での成果も含む）のような感じです。

景気の動きは国内の生産活動に密接なので、こと景気を見るための指標としてはGDPの方がふさわしいと言えます。

### 平成29年度のGDPとGNPの差はどれくらい？



ところで、どうして係長さんとMさんとで認識が違うのでしょうか。

かつての日本は、経済の大きさをGNPで代表していました。昔は海外との所得のやりとりが少なかったので、早い話がGNPでもGDPでも問題がなかったのです。

ところが、対外経常黒字が増えて海外に保有する資産の量が増加すると、そこから発生する利子や配当の受取が大きくなり、それらが決算期にどっと日本に送金されたりしたので、GNPの動きが実際の景気以外の要素に左右されるようになり、景気を表す指標としてはいかなものか？という話になりました。

そこで、日本では1990年代の前半に、経済の大きさを海外からの所得の受取・支払を除いたGDPで代表するようになったのです。

なので、高度経済成長期のモーレツサラリーマンを父に持つ係長さんはGNPという言葉がさかんに聞いたでしょうし、若いMさんは生まれたときにはもうGNPはGNIになっっていて、GDPが中心だったのでしょね。

いずれにせよ昭和も遠くなったものですね（筆者も遠い目）。

お店のママ「なあ～にい？何のはなしいい？」

係長「おっ、ママさん！ママさんはやっぱりGNPだよな？なっ？」

お店のママ「GNPい～？ それってG（ガッツリ）N（飲み屋で）P（ペイメント）？」

係長&Mさん「・・・(フリーズ30秒)・・・、お勘定。」

参考 中村洋一著「SNA統計入門」